

まちづくりの会で出された意見等

1. 「赤前地区復興まちづくりの会」(10月5日開催)における意見

■皆さんからのご意見・ご提案

検討の進め方について	・移転するか否かなどの意向調査をする際は、被災していない世帯も対象にしてほしい。 ・市が個々に意見を吸い上げて、県へ強く要望するなど主体的に取り組むべきだ。
復興まちづくりについて	・閉伊川は奥まで水が入ったので被害が少なかったと考えられる。津軽石川も水門ではなく、川に流すことも検討に加えてほしい。 ・防潮堤は逃げる時間を稼ぐものである。住む場所を安全にするためにはシミュレーションがないと検討できない。 ・復興まちづくりの検討にあたっては、各案の事業費や事業期間等を提示してほしい。 ・運動公園のガレキを利用して大きな山をつくってほしい。

■主な意見交換の概要

防潮堤等の施設について	Q: 防潮堤の高さが 10.4m になった場合、水門はどうなるのか。今回の津波では川の上流まで被害を受けたので、河川堤防の嵩上げもあわせて検討しないのか。	→	Q: 水門については県のシミュレーションの結果が出次第、報告します。稲荷橋から 2 線堤のように道路を嵩上げする案については、現在シミュレーションを進めており。その結果を検討に反映させたいと思います。
	Q: もし十勝沖で地震があった時、津波が来たらもっと被害が大きくなると思う。防潮堤をもっと高くすることはできないのか。	→	Q: 国の方針として、防潮堤については今までに 2 番目に高い津波を防ぐ高さとしています。宮古では宮古湾の最も奥の津軽石の痕跡高を基準にしています。防潮堤だけでは被害を防ぎきれないので、避難道路の整備など多重防災を検討する必要があると考えています。
	Q: 防潮堤を 10.4m にすると、今回の津波でどのくらいの被害が想定されるのか。	→	Q: 防潮堤が高くなる分、今回よりは被害が少なくなると考えています。
	Q: 広い運動公園があるがなぜ利用しないのか。また、県道もなで嵩上げしないのか。	→	Q: 水を遊ばせる区域が小さいと、整備する効果がでないと考えられます。シミュレーションの結果で検討していきます。
	Q: 避難道路の幅員はどう考えているのか。	→	Q: これから検討していきます。
復興まちづくりについて	Q: 各復興パターンについて、どのくらいの費用がかかるのかを提示してほしい。	→	Q: 費用については、復興まちづくりの方向が煮詰まってきた段階でお示ししたいと思います。現段階ではまだ算出することができません。
	Q: 高台移転の候補地は、どのあたりなのか。	→	Q: まだ決まっていませんが、従前のコミュニティに配慮したうえで、近傍の安全な場所に確保したいと考えております。
事業手法について	Q: 盛土をする案が出ているが、盛土したところにあたった水はどこに行くのか。	→	Q: 非可住地内で水を溜めることで、住宅地の被害を小さくすることを考えています。そのため、水を溜める区域(非可住地)を大きくすることが必要です。
	Q: シミュレーションはいつ出てくるのか。	→	Q: 次の検討会までには整理できるように進めています。
浸水区域内の土地・建物について	Q: 高台移転した場合の従前の土地については、どうなるのか。	→	Q: 現在の制度ではまとまって市に売るか、持ち続けるかを決めていただくことになります。

2. 「地区復興まちづくり便り」に関する意見

- (1) 「地区復興まちづくり便り」でお知らせしているように、現在各地区で「地区復興まちづくりの会」が開催され、今後、地区別の具体的な検討に入ってまいります。そのことについて、あなたの考えをお書きください。

今回の街づくりは被災したので出来たと思います、自分の家には住めない被災者の住居地を優先して事を進めてください。(80 歳代 男性)

地区をさらに何区域かに分け小地区での会合を開き代表者での意見をまとめる。

(50 歳代 男性)

まちづくりの会の役員メンバーを考え直してほしいです。年齢的に若いので、地区の事はあまり知らないと思います。本人は、そのままでいいですのであらたに仮設住宅、赤前地区に住居を構えていない地区の元住人も役員に加えてほしいと思います。了解がとれた場合ですけど、早く元の釜ヶ澤に帰りたいので何とかがんばって下さい。(50 歳代 女性)

- (2) 地区の復興まちづくりに関連して、あなたのお考えをお書きください。

赤前地区の移転候補地の一つである宮古工業高校の裏山に赤前保育園位の高さに敷地を作れば津波、山津波（土石流・洪水）の心配もなく安全安心の場所になると思います。

(80 歳代 男性)

現在の稲荷橋から一力屋間の県道を東北資材容器後から入る市道を嵩上げ2車線化（ヒロセ電機への通勤、トラック等の往来が多く子供を巻き添えにした事故も数件発生している）にし一力屋までつなげる県道にする。そのことによりバスの便も仮説にいる人、地域の人、工業高校生にも便が言いと思います。

(50 歳代 男性)

- ・ 高台移転の場合、他の地区に移転したい場合の事も考えて欲しい（海の近くはもういい、ちょっと他の地区が良い）
- ・ 土地の買い取り価格を震災前の価格に近い価格で買い取りして欲しい。
- ・ 土地を買い取りしてもらって自分で移転先を見つけても良いのか知りたい。
- ・ 生活再建支援の期間を延長して欲しい。
- ・ 住宅ローン（二重ローン）の利子補助を5年間の期間を延長して欲しい。

(40 歳代 男性)

1. 早期の藤畑地区への防災道路の拡幅、赤前から白浜への防災道路の拡幅整備
2. 赤前から駒形橋への市道の2車線化（歩道含）
3. 高台へ通じる市道、農道の整備（嵩上げ含）
4. 駒形通地区からの排水路の整備
5. 橋場川の朝日屋旅館付近の改修
6. 津軽石中学校の久保田山への移転
7. 運動公園の工業高校付近への移転

(50 歳代 男性)

赤前地区で川に流して欲しいとありました。賛成です。ずっと考えていました。津軽石川、閉伊川と大きな川があるので、防潮堤（？）を川上までしっかりとつくり、川底の土砂等の整備をして津波の波を流すことで少しでも宅地などへの浸水を防げると思います。

(40 歳代 女性)

3. 「復興に向けた計画づくりに関するアンケート調査（7月実施）」の自由記入より抜粋

大分類	中分類	意見
防潮堤等の施設について	防潮堤	防潮堤など多額に金を掛けても自然の力には勝てない。自然のままにしたほうがいいと思う。水を止めたところで、どこかに被害が出るのだからムダ
		防波堤を完備し、堤防を嵩上げして、津波が来た時は津軽石川をはけ口にする。
		白浜地区の防波堤（堤防）を3～4mのかさ上げと強化対策をお願いします。
	水門	上流側の津軽石新町地区には水門の効果が如実に現れました。
	国道等	津波に対応するには国道45号を嵩上げし、更に対岸の堤防の嵩上げ、県道重茂線を防潮堤を兼ねた嵩上げ道路に早急に取り組むべきと考えます。
		国道45号一本で避難すること自体が大きな間違いであり、一刻も早く三陸縦貫自動車道が必要である。
		三陸縦貫道のインターは海岸へ降りるのは避けて欲しい。三陸縦貫道が高架で造るのは反対、避難路の確保が困難。
	県道、市道	弘川から藤畑へ橋をかけてトンネルで重茂への道路が出来れば、稲荷橋を通らなくなり津波を心配しなくても良い。
		子供達が安心して通える道路を造って欲しい。
		藤畑に抜ける道路を整備して、バスを通してほしいと思います。
		宮古市は道路の復旧を第一に。
		まず、産業の創出のために道路の整備と高規格道路の建設が必要である。
		先ず、交通網をつくり上げることが先決。街づくりが早くなる。
		道路がちゃんと直っていないと、まだ続いている余震が心配。
		海岸道路を高台にしてほしいです（大雨や満潮時に通行できないことがあるため）。
		赤前から津軽石にぬける道路の整備を早くしっかりやってほしい。
	避難路	重茂から宮古市街方面に避難する方が沢山見られましたが、赤前の避難道路が一部冠水したり、未整備であったり、案内にも苦勞をしました。
		海岸線避難道の見直しが必要である。
		避難路の整備・街灯（外灯）が必要
	公共交通	県北バス通路について、赤前地区は小学校下より稲荷橋間は家が有りません。朝の通学以外は部落側を通って車のない人達を助けて下さい。
	公共施設	宮古市役所の移転はしなければいけないと思う。不測の事態に対する備えも大事だと思うからです。市の中核である役所は移転すべきである。
		公共の施設について、高台に建設するべき。
	公営住宅	県営住宅に入っている者です。長く入っていただけるようお願いしたいです。
		年金生活者です。公営住宅に入りたい。公営住宅の大幅な拡充を求める。
		交通の便をよくし、市（公）で新しい地域別団地を構築し貸与又は分譲すればよい。
		現在盛岡市の公営住宅に避難生活をしていますが、出来れば宮古市の公営住宅に住めればよいなと思っています。
		出来れば震災前に住んでいた近くに市営の住宅を作ってもらいたいです。
復興まちづくりについて	将来像	地盤をかさ上げして、津波を含めた水害に備える。平坦地（埋立地、山の切削地）は宅地の他、海洋基地（メタンハイドレード及び海底資源）とする
		若手企業家を宮古市の参考としてお迎えして、いろいろなアイディアを出してもらおう。メガソーラ構想にも積極的に参加してもいいと思います。
		復興に向け、歴史ある観光地として発展を目指して欲しい。
		自然と共存する復興を目指して欲しい。決して自然災害を完全に予防する事は出来ないと思う。
		震災前の状況に戻しながら発展して行って欲しい。
		宮古市のリニューアルも必要なことではないでしょうか？

大分類	中分類	意見
復興まちづくりについて	漁港について	宮古は水産の町である。水産業の復旧が望まれるが、すべての港が壊され、船も係留できない状態である。水産業復旧が雇用や観光につながる。
		海底の調査、養殖施設の復旧。作業場・乾燥場などの建設。岸壁の補（使用可能な状態へ）。船の早目の納船。白浜赤前間の道路の早めの全舗装など。
		減災水産開発センター（例：実戦漁具・漁法の技術開発。漁具・漁法の実物の保管）。三陸津波観光紀行（沖側から観光案内。地側からの観光案内。）
		養殖施設の早期復旧が出来る様に漁場の復旧をお願いしたい。宮古漁業早く復興に向けた計画早く出してほしい。
	防災対策	短時間で誰もが避難出来る場所の確保とすぐに避難する教育訓練、地域のコミュニティ作りが大切と感じています。 今後の防災対策を早く決めてほしい。
事業手法について	高台移転	早く高台でも別の安全の土地でも具体的な場所をさがしてほしいです。住める用地が確保出来るのか不安だ。高台に造成した土地に安心して住めること願っております。
		高台に住めるように山をくずし造成し団地を造り、藤畑に抜ける道路を整備して、バスを通してほしいと思います。
		高台移転等を考え、都市計画を見直し法律も整備。住宅取得に対して、資金面でのバックアップも必要。国の復興案にそった新しい考えを入れた計画を進めて欲しい。
		震災にあった海の近くには住宅は建てないで高台に移れるように山をくずして土地を作してほしいです。
		白浜から藤畑への高台に道路を造って、そこに住居が建てる場所が出来ればよいと思う。
		高台の農地をこれからの宅地にしたいと思っています。農道の為、道路の確保が大変です。公的な支援はできないのでしょうか。
浸水区域内の土地・建物について	面的嵩上げ	もう少し土地をかさ上げすれば今回流失をまぬがれたろうと思われる土地は、優先してその費用（かさ上げの）を出して復興の先陣を切らせる事を望みます。
	個別再建について	全壊した自宅の跡地に再建するのは、とても抵抗を感じるので、跡地を買い上げてもらい自ら宅地を購入したいと考えている。
	土地利用	海岸防潮堤の嵩上げ、県道重茂線を防潮堤とした多重防御堤防とした場合、平地の活用は多岐に渡り有効活用できるのではないかと考えられます。
	既存不適	所有していた土地がこれからどのように取り扱われるのか決まっていない。まずは土地の取り扱いが見えなければ今後の再建計画をたてることは難しい。
		白浜地区は土石流危険区域に指定されているが、被災者が家を建設出来るように、危険対策を施して欲しい。又は、指定緩和して、新築出来るようにして欲しい。
	売却	国で流された土地を購入して欲しい。国で山など切り開いてもらい、高い場所に家を建てたい。